

子どもの病気について ～症状に合わせた対応～

感染症にかかった場合の登所（園）に際しては、

- ① 子どもの健康（全身）状態が保育施設での集団生活に適応できる状態に回復していること
- ② 保育施設内での感染症の集団発生や流行につながらないこと、について確認が必要です。

登所（園）を控えることが望ましい場合は、医療機関を受診し家庭での休養をお願いします。

登所（園）を控えるのが望ましい場合	
発熱時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 24 時間以内に 38℃以上の熱が出た場合 ○ 24 時間以内に解熱剤を使用している場合 ○ 朝から 37.5℃を超えた熱とともに、元気がなく機嫌が悪い ○ 食欲がなく朝食、水分が摂れていない （例1） 朝から 37.8℃の熱があり、機嫌が悪く、食欲がないなど、全身状態が不良な場合、登所（園）を控えるのが望ましい。 （例2） 37.8℃の熱があるが、朝から食欲があり、機嫌もよいなど、全身状態が良好な場合、一律に登所（園）を控える必要はないと考えられる。 （例示した発熱時の体温はめやすであり、個々の子どもの平熱に応じて、個別に判断が必要） <p>★ 0～1 歳児の乳幼児の発熱に関する特徴について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体温調節機能が未熟なために、外気温、室温、湿度、厚着、水分不足等による影響を受けやすく、体温が簡単に上昇する。 ・ 咳や鼻水などのかぜにみられる症状がなければ、水分補給を十分に行ない、涼しい環境に居ることで、熱が下がることもある。 ・ 0 歳児が入所（園）後、はじめて発熱した場合には、突発性発疹の可能性もある。 ・ 0 歳児が入所（園）後、はじめて発熱した場合には、熱性けいれんを起こす可能性もある。 ・ 発熱がある、機嫌が悪いなどの様子とともに、耳をよくさわる様子が見られる時は、中耳炎の可能性もある。
下痢の時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 24 時間以内に 2 回以上の水様便がある場合 ○ 食事や水分を摂ると、その刺激で下痢をする場合 ○ 下痢と同時に、いつもより体温が高い場合 ○ 朝、排尿がない場合 ○ 機嫌が悪く、元気がない場合 ○ 顔色が悪く、ぐったりしている場合
嘔吐の時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 24 時間以内に 2 回以上の嘔吐がある場合 ○ 嘔吐と同時に、いつもより体温が高い場合 ○ 食欲がなく、水分も欲しがらない場合 ○ 機嫌が悪く、元気がない場合 ○ 顔色が悪くぐったりしている場合
咳の時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 夜間しばしば咳のために起きる場合 ○ ゼイゼイ音、ヒューヒュー音がある場合 ○ 呼吸困難がある場合 ○ 呼吸が速い場合 ○ 少し動いただけで咳が出る場合
発しんの時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発熱とともに発しんがある場合 ○ 感染症による発しんが疑われ、医師より登所（園）を控えるよう指示された場合 ○ 口内炎がひどく食事や水分が摂れない場合 ○ 発しんが顔面等にあり、患部を覆えない場合 ○ 浸出液が多く他児への感染の恐れがある場合 ○ かゆみが強く手で患部を掻いてしまう場合

※ 医師が記入した意見書が必要な感染症があります。

※ 意見書の用紙は、保育施設にあります。市のホームページからもダウンロードすることができます。